


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者が、地域で自然なかたちでいつまでも暮らすことができるように関わりを大切に、「利用者の尊厳と地域との共生」を理念にしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の個性を大切に、その人にあった地域との関わりを大切にしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝、申し送りの前に理念を読み上げている。</p>	<p>○</p> <p>理念の実践が確実に理解し実行できるように、日々の業務の中で適切な指導ができるようにしていきたい。管理者の育成。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>年に一度は、ホームの理念を広報誌に掲載している。又、家族や地域の方に知ってもらう為にホームの玄関に掲示している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>お天気の良い日には、散歩に出たり、庭先に出る機会を多く設け地域の方々との関わりの機会を多くしている。顔見知りも増えて気軽に立ち寄ったり声を掛けて下さったり、差し入れがあったりと近所付き合いは良好。</p>	<p>○</p> <p>近所付き合いをもっと広範囲に広めたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホームで毎月交流会をしているので、なじみの方が増えたり呼びかけしなくても来てくださるようになった。運動会参加あり。</p>	<p>もっと、地域活動に参加したいと思っているが、ホームの利用者も高齢になられたので外出が難しくなってきた。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月の交流会の時に、地域の方々の介護についての悩みや介護保険のことなど話を聴いたり、助言したりしている。	○	地域の役に立てるように、気軽に相談に来ていただき対応できる体制を築きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が実施する意義を理解するとまでは行かないが、努力する理解しようとする姿勢はまずまず見られている。評価を活かした改善は管理者と共に取り組むように努力している。	○	職員一人ひとりが自己評価し、改善作を検討し職員みんなで話し合い取り組んでいけるようにレベルアップにつなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の運営推進会議を行なっている。意見等が少なくサービス向上に活かされている事は少ない。	○	もっと、サービスの向上につながるような意見などが出されるように調整検討が必要であると思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域での認知ゼミや広域に出向く機会を設けサービスの向上に取り組んでいる。	○	もっと市町村との連携が図れるようにグループホーム協議会の立ち上げを検討し取り組んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が人権擁護等の研修会に参加した折には、職員と話し合う機会をつくるが詳しくは難しいし、実際に必要な人がいると理解も深まるが、今のところそのような事業があるということだけは理解している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを作成。又ニュースや新聞紙上等でそのような事件等が報道されたりすればミーティング等で話し合ったり、日常業務内で注意を払い防止の必要性を話すようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、必ず契約内容を分かりやすく説明し読み上げて説明するようにしている。又、分からないような事があれば後日でもお尋ねいただくようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市からの派遣相談員を受け入れている。玄関に苦情相談窓口の掲載と第三者委員の名前を掲示している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付の際、利用者の心身の状況やホームの行事や様子などについて書面で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に相談や苦情を言えるように、面会の折にそのような事がないかを尋ねたり、意見箱を設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの際や毎日申し送りのとき他日常的に職員の意見や提案が出せるように言葉かけしている。	○ 職員の意見提案がもっとたくさん出てみんなで協議し合えるようになりたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	まずまずできていると思う。日中の職員体制3:1に管理者を+1にしているので状況変化による日中夜間の利用者や家族の対応は、管理者が対応している。又、近所に職員が居るため融通が利きやすい。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は、職員の離職による入れ代わりが多く利用者に幾らかダメージを与えたような事もあった。しかし、職員自身の問題でもあり事業所や職員等の問題ではなかった。現在はまずまず職員が定着し落ち着いているようにも思えるので今後離職が出ないように努力していきたい。	まずは、職員自身の問題(意欲、志、性格)と人間関係や金銭面が問題となる。長続きできる職員を確保するには難しい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画がたてられていない。	○ 働く意欲の出る環境(明るく楽しい雰囲気)作りへの取り組みの実行を行い。就労するというだけでなく他にも興味を持って勉強会や研修、資格修得に意欲が出るように取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回同業者のとの交流を行い勉強会意見交換などを行っている。	同業者の意見交換で、サービスの質の向上は勿論、自分たちのストレス解消にもなっている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルームを設けている。時には職員のミーティングを食事会にしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護業務だけではなく、機会があれば資格を取るための助言や資料の提供、研修等の機会を作っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居一週間程度は、心がけて利用者の不安や心身の状況を知るために関わりを多く持つようにしている。信頼関係を築けるように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との会話を大切にしている。面会の折には必ず利用者のいないところで状況を報告したり家族の思いを聴くようにして、少しでも家族の不安や負担が軽減でき、家族が笑顔で面会に来ていただけるように努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ在宅を推進する。家族や本人にとって一番良い方法を検討していただき他のグループホームの見学やデイやショートステイの利用後の入居など担当のケアマネージャーとも調整を図っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイやデイサービスの利用ができることで、徐々に馴染み本人も家族も安心して利用できるようにしている。	○	資格修得者が少ないので、確保できるように介護福祉士の資格修得のための助言をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を敬い尊重しながら、ともに楽しみあい共同の作業をしながらともに支えあう助け合う関係を築くように努力している。		一緒に台所に立ったり、買い物に行ったり、昔のことを聴きながらおしゃべりしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の折には必ず言葉をかけ、気軽に何でも相談していただけるようにしている。私たちは、利用者の方々からいろんなことを教わり癒されていることを伝え、「介護しています。」という気持ちではないことをそれとなく伝えている。		利用者の思いを感じ取り、家族の協力が得られるように、面会の依頼や面会時の対応の在り方について助言している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の話をよく聴き、家族の話もよく聴きお互いが良い関係でいられるように、言葉かけて、お互いのいたわりの思いを伝えている。家族間の問題もあり、不都合なことは言わないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居するにあたり、馴染みの家具やベッド、写真を持ってきてもらっている。又馴染みの場所に連れて行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がお互いに良い関係で関わりあえるように、職員が仲介している。「○○さんを起こしてきて。呼んできて。」一緒に出掛けたり一緒に軽作業したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、毎月発行している広報紙を郵送している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本理念にも取り上げているように、個々の思いを大切に聞かせていただいている。		業務中心ではなく、利用者の思いを大事に利用者が安心できる生活の継続が図れるように日々指導している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族及び担当の介護支援専門員から話を聞いたり、本人や面会の方から聴いたりして把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプラン作成時は、課題分析をおこない、把握するようにつとめている。		職員全員が把握できるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に来られた時に、お話しして介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には六か月ごとのケアプランの見直しをしているが、必要に応じて度々計画の変更をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録あり。日々の申し送りと連絡帳及び月に一度のミーティングで情報の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容室、外食、買い物に行ったり、仏壇を持参されお花を替えたりお盆や正月の準備をしたりと自宅にいたときと同じような環境を作り柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区民生委員、警察官駐在所には毎月広報紙の郵送、地区消防団のホーム視察をお願いしている。	○	地域の協力理解がもっと得られるように努力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでは、他のサービスを使う機会は少ないが、デイサービスとショートステイの利用が可能になっているので地域のケアマネジャーとのかかわりは増えた。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとのかかわりは少ないが必要時は対応できるようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を主治医とし、訪問診療により利用者及び職員への負担が少なく医療が受けられるようになっている。又利用者の状況に応じて専門医療機関への調整はできるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月、認知ゼミに参加し問題となる事例検討会などがある。このとき必ず認知症の専門医が出席されるので相談できる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関がありその看護師やその他施設等の看護師などを知っているため相談助言がもらえる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医師や看護師、介護支援専門員等との連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化、重度化しそうなときは、家族、職員、協力病院と日頃から話す機会を多く持ちどのような対応で対応していくか調整し、全員で共有できるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在の所、重度化した方や終末期の利用者がいない。今後はターミナルの受け入れはありうるので職員全員に取り組む意思があることを伝えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	在宅からグループホームに入居する際は、馴染みのものを持参していただいたり、今までの生活歴や生活環境などの情報を得るようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけ等に対しては日頃気づいた時点で指導するようにしている。個人情報の保護のため職員に秘密保持の誓約書をとっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の身になって、利用者の思いを理解しようとする努力をすること。利用者のペースに合わせて接すること。職員のペースではなく利用者の気持ちを大事に支援するようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活は必要なので日課にそってすごしているが、個々のペースに合わせて外出したり買い物に出かけたり、調理の手伝いをしてもらったりしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月の交流会の時や外出、外食、面会があるとわかっているときなどは、更衣したり化粧したり、美容室に行ったりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいかきいたり、一緒に畑に野菜を取りに行ったり、調理の下ごしらえを手伝ってもらったりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人で持ってこられている、はちみつやお菓子、梅酒ほか嗜好品がある。認知症があるので、日常生活で他者や本人に影響がない限り許可している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者全員の排せつパターンを記録し、できるだけおむつはずしお違和感のない汚染の少ない排泄に向けて支援している。		周辺症状があり、安定剤の服用で日常生活のレベル低下が目立ち乗じ失禁がある利用者に対して、失禁をなくすためにも、安定剤の減量を実行し汚染を少なくできるように支援している。夜間自力でトイレに行くことが増え汚染が軽減している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況に合わせて、夜間の入浴や毎日の入浴も可能としているが、現在は利用者のレベル低下があり、週三日の中の入浴としている。心身の状況に合った入浴になっていることもあり、希望に合っていないかたたり拒否もある。		都合がつけば、温泉にお連れすることもある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日課は決まっているが、利用者の心身の状況や生活習慣に合わせて、居室で休まれたり座敷で休息をとられたりできるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者全員は難しいが、農家の方や学校の先生、看護師など一人一人の生活歴を知り、教えてもらうような言葉かけをしたりお願いしたり、てつだってもらったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っても良いような方は、手元に持っておいていただき財布から自分で支払われる。最近では高齢化と認知症の進行によりお金を自分で出すことが少なくなっているが一緒に買い物に行き品物を探したり立替払いで支払ってもらっていることもある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化が進み外出することを嫌がる利用者もいるができるだけ誘っている。ごく普通に銀行や郵便局、市役所、買い物に誘っている。日常的に利用者全員が戸外に出しておしゃべりしたり、風を感じたりご近所の方との関わる環境を設けている。		できれば多くの利用者を外出させたいが、高齢化したことと外出嫌い、車酔い等もあり全員外出することはすくない。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方は、利用者の心身の状況をみると疲れるため近場ではあるが、お祭りごとでの山笠見物やお花見などに行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。かけることのできない方でも電話の対応のできる方は、こちらから誘うこともある。手紙を書くことのできる方は、積極的にすすめている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族にはできるだけ面会に来ていただけるようお願いしている。気軽に面会に来ていただけるように、利用者の居室や和室に案内し、ゆっくり過ごしていただけるように配慮している。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束のないホームであることを指導している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	実行している。		無断外出もあるが、制止せずに自然に職員がついて行っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者に対しては自由行動で特に制限せず、指示せずに職員は定期的に所在確認するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、針、マッチ、ライターなど危険なものはホームで預かるようにしているが、お花の手入れをされるような方で危険ではないと判断できる方には、渡している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	進藤の危険のある方の見守り誤嚥の危険のある方の食事の見守り無断外出の危険のある方利用者の所在確認と見守り上の注意点など事故が起こった時の対応と連絡など日々話している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの作成はしているが、定期的な訓練はしていない。	○	職員が適切な対応ができるように定期的な訓練をしたいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期の運営推進会議での地域への協力を働き掛けていると同時に隣さんとかかわりを大切にしている。地域の消防団との連携が取れるようにはかっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族の面会時や月一度の状況報告の際に予測されるリスク等について説明する。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化に気づいたときなどは必ず管理者に報告または管理者は全職員に速やかにわかるように申し送りや連絡庁で情報の共有をはかっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切な服薬ができるように看護師が確認し利用者ごとに日付を記入し分けている。薬の分量効果などは職員が確認できる所に掲示し、問題があれば看護師が説明している。		新しい薬が処方された時は、なぜ処方されたのかどのような薬なのかなど職員へ知らせている。必要な時は薬の文献を掲示している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、日中夜間の補水などどのくらい摂取されたか確認している。又疾患により制限等のある方などは、毎回水分を測定して一日の摂取量計測し多くならないようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成。感染症や食中毒など県や市からの文書が届いたら職員に知らせている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日衛生管理票でチェックし食材の管理や衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放的な空間にしている。縁側や勝手口テラスなどどこからでも言葉かけしてもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家の中にいても外がよく見え小鳥や花や畑の野菜が見える。雨が降ってもテラスに出ることができる。座敷には、縁側があり昔を懐かしみ外との会話ができ、床の間には花を活け、お客様が訪問された時は、座敷に通していると利用者が座布団やお茶をだしてくださる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓代で過ごしたりソファで過ごしたり、座敷で過ごしたりと居室以外でも気の合った利用者同士で過ごせる場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族によっては、なかなかなじみのものを持ってきてももらえないところもあるが、馴染みのタンスや時計、写真、小物など持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開け、臭いや空気のだよみがないようにしている。冷暖房の温度設定は外気との温度差が大きくなるようにしている。夏28℃に設定。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレのてすりは、利用者の自立を促している。長い廊下は毎日の歩行訓練の場所である。座敷は昼寝をしたり、洗濯物を畳んだり生活の場として利用し立ったり座ったりの動作を継続させることができる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者への関わりを大切に個々に合った対応で、言葉かけし混乱させないように心掛けている。できることを支持するのではなくお願いしたり、自分からしようとされるように誘っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑での野菜収穫。庭の草取りや花の手入れ。ベランダに椅子を置いて利用者がくつろげるようにしている。バーベキューやコンサートなどの開催。	○	今年は、調整がつかずコンサートができなかったので来年はできるように調整したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームの様子や認知症の理解していただくために、広報誌を毎月出している。どのグループホームも、介護保険のもと適切なケアが行われ質の向上が図れるようにグループホーム同士の交流会毎月を開催している。又広域と調整し唐津地区での協議会の立ち上げ協力している。認知症への理解を地域に広めるために認知症キャラバンメイトに参加。